

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第2回）議事概要

1．日 時：平成23年2月3日（木）14:30～16:30

2．場 所：農協会館601会議室

3．出席者：都市再生委員会委員7名

脇田安大委員長、有馬一郎委員、石元雅広委員、川添一巳委員、
平野啓子委員、山口純哉委員、渡邊貴史委員

（欠席4名：伊藤滋委員、塚根進委員、外井哲志委員、林一馬委員）

都市再生委員会事務局

長崎県 副知事（藤井 健） 知事公室長（田中桂之助）

知事公室参事監（加藤 永） まちづくり推進室長（松元栄治郎）

まちづくり推進室（浦瀬俊郎、北島孝志、添川信一）

長崎市 副市長（椎木恭二） 都市計画次長（池田 宏）

まちづくり推進室長（佐藤順一郎）

まちづくり推進室（田畑徳明、飯田恭祥、濱崎一弘）

4．内 容

（委員長）

・それでは、資料3、4について事務局から説明をお願いします。

（県事務局）

・資料3、資料4の説明

（委員長）

・委員の皆様からご意見等はないか。

（委 員）

・香港上海銀行に隣接する駐車場の質問について、回答の方は松が枝駐車場となっているが、マッチしているか。

（県事務局）

・分かりづらい書き方だったかもしれない。内容としては、香港上海銀行の横の駐車場を指してのものである。

（副市長）

・香港上海銀行に隣接する駐車場は松が枝駐車場第一駐車場である。そのさらに横の方の地下に降りて行く駐車場は松が枝第二駐車場で県から引き継いだもの。

（委員長）

・以上でよろしければ、資料5の県庁舎整備基本構想案について事務局から説明をお願いします。

（県事務局）

・資料5の説明

(委員長)

- ・資料5について質問はないようなので、続いて本題となる資料6、松が枝周辺エリアの整備計画案の説明を事務局から願います。

(県事務局)

- ・資料6の説明

(委員)

- ・観光船の停泊地は当面1バース(停泊地)で対応されるのか。

(副知事)

- ・既に長崎港には来年度48隻のクルーズ船の入港が予定されている。一方で上海航路の運行日がどうなるかはまだ確定していない。何隻かは日程がバッティングする可能性があるため、どう処理するか、まさにこれからHTBと協議しないと行けない。
- ・大型クルーズ船のCIQ(出入国手続)については、その日のうちに出航するので、陸にあがってからでは間に合わない。そこで、先乗りして船の中でCIQを行っている。長崎方式と我々は呼んでいるが、この方式であれば、仮上陸許可証という形で上陸できるので、松が枝でなくても、出島岸壁でも上陸はできる。
- ・定期航路については、上陸してからのCIQとなる。
- ・バッティングした場合は、どちらかを優先するか、定期航路を優先するか、例えば小ヶ倉の柳ふ頭に一定機能(岸壁と上屋施設)はあるので、そこを改良して一時待避するようにすることも検討しているところである。

(委員長)

- ・それでは、1人ずつご意見を賜りたい。

(委員)

- ・私からは、形式と手続きについて意見を申し上げます。
- ・P27を見ると、整備について、第1段階、第2段階という表現が使われているが、「段階」というのは、積み重なっていくイメージ。しかし実際には、どちらも重なって進めていくものなので、時間の長さに着目して、例えば長期整備プログラム、短期整備プログラムとした方がよいと思う。
- ・また、第4章より前の部分で整備方針が記載されているが、それが第4章の整備事項のどの部分に反映されているのか分かりづらい。そうした整合を図った記載が必要ではないか。
- ・第1段階のことは記載されているが、第2段階のことは、その他にしか記載がない。短期ではこれを実施、長期ではこれを実施という形で網羅されるのがよいのではないか。
- ・短期、長期と分けた理由について書かれていない。都市再開発の時に良く言われるのが必要性の論理と可能性の論理、必要性とは地域の特性を考えた時に本当に必要かということ、また、可能性とは社会的コストの最適化を考えた場合に本当に限られた時間の中で実現できるのかということ。そうした必要性、可能性の論理から、なぜこの計画が選ばれたのかということを示すことが、色々な各主体と合意形成を図っていく上で大事と思う。

(委員)

- ・整備方針等の中にソフトのことがよく書かれている。例えば、外国人観光客を受け入れて「さるく」を活用しようとか、地域限定通訳案内士を使おうなど。私の感覚的なもの

かもしれないが、今のさるくでは対応が難しいところがあると思う。市民と親しみたいという方は市民のボランティアガイドさんで良いと思うが、お金を払ってでもきちんと話を聞きたい人には、そちらのガイドをという形でガイドのシステムを相当高度化しないといけないと思う。ただ、今でもガイドでは食べていけるようにはなっていない。クルーズ船等で外国人観光客が安定的に来るから食べていけるだろうということではなくて、その前の段階で、ガイドの経済的自立ということも考えていく必要があるだろう。

- ・松が枝周辺を大規模に変えるのであれば、地域の住民の方の生活との兼ね合いもあるので、地域の住民の皆様のご意向もあるだろうから、しっかり説明していただくことをハード整備との車の両輪としてやって頂きたい。また、行政は縦割りになりやすいので、他のところは知らないとならないよう気を付けてほしい。こういったことを明記できるのであれば明記してほしい。
- ・県庁舎の整備等も含めて長崎市内の土地に関するパズルのような話が出てくる。長崎と大村どっちという話もあるが県立図書館の件、また、長崎市が検討されているコンベンションの件等もある。長崎県の県都として、また長崎市として、都市再生に係るエリアだけでない全体像との整合性をとった上で施設の配置を進めて頂きたいと思う。これは書くか書かないかは別にして、進めていく上で配慮願いたい。

(委員)

- ・第1章の方針と見比べながら、これからの段階的整備の内容を見せて頂いたが、今回の整備計画では施設整備の方がピックアップされているので、前の章との整合性と方針の中に書かれている施設整備にならないソフトの部分をどのように段階的に整備していく計画の中に入れ込んでいくのか飲み込めない。何か、すくと落ちない部分がある。

(委員)

- ・県庁舎の移転が決まったが、それに引き続いて長崎市役所の建て替えという話もある。コンベンション施設、県庁跡地の問題など、都市の核になるものをきちんと検討して、ビジョンを持った上でこうした計画を進めていけたらという願いがある。
- ・上海航路であるが、中国人のお客を受け入れた時にどう回していくのか、民間の話であるが、行政と一体となってビジョンを持っていかなければならないのではと思う。

(委員)

- ・長崎は、修学旅行では平和学習や歴史文化で注目されている。そうした点からは駐車場の整備をお願いしたい。
- ・上海航路については、中国からの誘客の話もあるが、長崎から中国ということを考えたとき、航空路線の配慮も必要だが教育委員会等、行政も海外修学旅行を視野に入れたらと思う。
- ・4月7日には長崎発着、シンガポール行きのダイヤモンドプリンセスに、福岡から24人、長崎から6人、熊本からも来られる方がいる。クルーズで長崎は注目されていると思う。上海航路ができた時には、旅行会社も商品構成に取り組んでいく必要があるかと思う。
- ・大会誘致は重要と思うので、器的なものは賛否両論あると思うが検討して頂きたい。

(委員)

- ・三菱造船が世界一になった時は別にしても、この50年で港がこれほど話題になったのではないのではと思う。前向きな港の議論をこんなにできたのは嬉しいことである。
- ・港の整備については、長崎には今有利な条件が色々あるので、ぜひ整備を急いでやってほしい。

- ・過去に長崎の企業が上海航路を運営していた折、上海ガニの輸入を海路でおこなったが全滅だったということもあった。しかし、そのころよりも背景、状況は随分変わってきていると思う。前領事の協力を得て春陽から今月だけでも3回、校長先生10名も一緒に修学旅行が来た。コンベンション協会も市と一緒に努力しており、そうしたこともあって、うまくいくのではないかと気がしている。ぜひ、県市で努力して頂きたい。

(委員長)

- ・クルーズに来て頂いてもあまりお金が落ちないという悩みがあり、1年半前から母港化という話をしてきた。母港化に近い形で上海航路復活ができれば、宿泊や夜の食事が発生するというクルーズと違った効果が出るという意味では嬉しい話で、受入体制を民間としてどうするかが課題になってくると思う。
- ・計画自体は細かい点を検討すれば問題も出てくるだろうが、基本的にはこういう方向感で賛成という気がしている。
- ・多少気になるのは、ハード整備が進められていくが、長崎人がこのエリアに近づくのかという点である。水辺の森には行くだろうが、松が枝については乗客の基地になるだけという気がする。割り切れればそれでも良いのかもしれないが、もう少し何か工夫できるのではと思う。
- ・松が枝の国際ターミナルは、非常に綺麗で、環境にも配慮され、ロケーションもよい。しかし、もともと国際ターミナルとし出来ていて、会議とか集会には全く不向きと思う。一方で市民にどんどん使用してくれと言っているが、ハードを造ってからどう使うのか議論した感じで、どう市民が使うのか想定されずに造られた感じが正直する。
- ・市民に利用して頂きたいと思うのであれば、複合型の施設として造っていかないといけない。せっかくいい場所なので、そういうことも考えたらどうかと思う。本格的コンベンション施設を中につくるのは無理だろうが、それは別に近くにつくればよいと思う。しかし、長崎は中規模の会議施設が少なく、NPO団体の活動が活発になってきているが、場所で苦労されているので、まち中が良いということもあるだろうが、駐車場も取れるので、そういうようなことにも使えるようにするのも一つの手ではないか。
- ・乗客だけの施設とするのは、もったいない。

(副知事)

- ・上海航路は、ハード先行でソフト面が足りないのではということをご指摘の通りだと思う。上海航路は当初は10万~20万人想定だが、ハウステンボスは毎日運航を明確に言っており、そうすると毎日千人規模でお客様が来るわけなので、これは都市の構図を根本的に変えていくということになると思う。
- ・安い運賃だから毎日来るので、例えば歯科や封切りされない映画を観にとか、単に旅行者として来るだけではなく、都市の構図が変わってくる。中国語のフリーペーパーや免税店などもつくっていかないといけない。そうした様々な部分で色々構図を変えていかないといけないが、そのこのところはこの計画にまだ全然書き込まれていない。
- ・そういうものは役所が一方的につくるものではなく、経済界や市民の方と、まさに一緒になって作り上げていかないといけないものと思っている。例えば動くパビリオン等、上海航路で色々書いている部分などは、来年度の予算で、市民参加型で提案を出して頂くようなスキームを用意して、色々なアイデアを出すということを考えている。
- ・その時に松が枝が単に素通りする場所になるかは、活用の仕方で変わるが、忘れていけないのは、中国の方が来て終わりではなく、日本の方も安く中国に行くのであれば、長崎に旅行に来て、ついでに上海に行こうというような、ゲートウェイとはまさにそういう可能性もあるということである。私共も、むしろ新しいアジア軸をつくっていくよう

なものの中に長崎を位置付けなければならないとっていて、長崎県の人達だけで色々なイベントをやるだけでは駄目で、湯布院の方も熊本の方も長崎航路を使ったイベントに参加してもらうことが必要である。湯布院に行く方も長崎経由で、また昔の上海航路では東京駅でチケットを売っていたそうなので、日本の方が中国に行く時にも長崎経由でというようなことを考えなければならない。

- ・そうした時に、松が枝は大浦地区にグラバー邸があり、大浦天主堂もあり、重伝建地区にもなっているので、そういう拠点としての場所ということも踏まえてどういう風に活用していくのかを考えないといけない。
- ・クルーズでは中国の方は1人1日4万円消費して頂いている。宿泊はされないなので、経済的にはピンポイントでしか効果は出ていないが、それでも大きな船が入れば経済効果はある。今度は定期航路なので、もっと夜の賑わいにも影響があるので、そういうことを行っていくことは大事と思う。
- ・松が枝の施設が複合施設になっていないのはそのとおりで、もともとC I Qターミナルとしてつくったもので、それだけではもったいないということで他の活用もできないかとさせて頂いている。コンベンションについては、また別途きちんと議論をして考えていかなければならないことで、この計画でもコンベンションという言葉は明記させて頂いているところです。
- ・県庁舎だけでなく色々な施設の移転の話もあり、委員から特に核となるものを中心に色々と考えていかないといけないという指摘があったが、そのとおりで、この都市再生の整備計画、基本計画の中には県庁舎と県庁舎の跡地の話は白紙になっている。県庁舎が魚市跡地に移転したとしても整合性が取れるようにまちづくりの計画は立ててはいるが、具体的にそこをどうするかは白紙になっている。今度は県庁舎の移転を決めましたので、当然白紙でなく色を入れたいといけない。どういう風にまちづくりに活かされていくのかの絵を、具体的に動線や活用の仕方等を、改訂して入れていかなければいけない。
- ・知事が公表した時にも、まさに基本計画の中に盛り込む作業をこれからやるようにしたいと表明されている。そのことについては、事前に長崎市長とも話をさせて頂いて、一緒にやらなければならない話なので、県と市で力を合わせて計画の中にきちんと盛り込んで行きましょうということを確認させて頂いて発表させて頂いているところである。
- ・今回は報告だけだが、今後具体的に白紙の部分に絵を描く作業について、またご意見を頂きたいと思うので、またその中で具体的議論いただければと思う。

(県事務局)

- ・段階でなく短期、長期の話はなるほどと思う。
- ・前半の全体像と第4章がハード中心になっていて、関係が見えづらいというのは、まさしくそういう構図になっていて、全体との整合等、全体との関係、それ以外の部分をどうしていくのか、次回までに整理してお示ししたい。

(委員長)

- ・時間もないので、資料7の説明を事務局から願います。

(県事務局)

- ・資料7の説明

(委員長)

- ・離島航路へ繋ぐ方法は、昨年度の基本計画策定において提案された検討案を整理して頂いているが、それぞれ難点はあるなと思うが、このあたりはキーになるのではと思うがご意見はないか。

(委員)

- ・駅前商店街と連携しながらとあるが、駅舎とのこの間隔であれば、どうやって誘客するのかという気がする。JR九州のビルに入るという手もあるかもしれないが、地場の商店が賃料を払って入るといってもないだろうから、長崎駅からターミナルまでの間の動線内にそういう商業スペースがあってもいいのではないかと、その方が旅行者の方も歩きやすいのではないかと。
- ・元船の元線路のところだが、屋台村をつくろうという動きも過去にはあった。後ろ向きの話ではなく、むしろ積極的に商売できる場所があった方が商業者にも旅行者にも良いだろうし、良い物を売られるという条件付きでもっといい賑わいのある場になるのではないかと思う。

(委員)

- ・まず言葉の使い方だが、県庁には「しま」と書かれた暖簾がたくさんある。「りとう」と言わずに「しま」というのだと県庁の方に言われた。航路が後ろにつくので、「りとう」でいいのかとも思いながら、できれば「しま」に統一して頂いて、「しま航路」を長崎初のネーミングとしていただければとも思うが、県はそのような姿勢と思ったが変わったのか確認したかった。
- ・駅前商店街は親戚がいるが、多分やっていけないのではないかと気がする。これだけの距離を歩いて商店街に行くのはまずないだろう。駅前広場に朝市みたいなものとか、長崎の物産、美味しいもの、本物を置いて、そういうものを並べながらやれば、自然と足が進むのではという気がした。
- ・しま航路への流れは難しい。まさに帯に短しタスキに長しと思う。できれば歩くにしても、機械に乗っていくにしても、眺めの良い方がやはり楽しい。
- ・荷物がある方は、それが重くない形で移動できる、多少お金を払っても荷物を持っていくようなサービスを考えるのも1つの方法かもしれない。
- ・コストやメンテが大変だろうが、2案の海を跨ぐという計画をやってみたい気がする。これは責任のない意見だが。

(委員)

- ・歩けるところが増えるのは楽しいことと思う。
- ・以前から気になっているのは、電車のトランジットモールで、これはどうかと素朴に思っている。

(委員長)

- ・もう少し詳しく説明をお願いします。

(委員)

- ・長崎電気軌道からは、トランジットモールはあり得ない計画とずっと聞いている。しかし、計画上は一向に変わる気配はなく、行政と長崎電鉄とでどういう話になっているのかと思う。

(委員)

- ・国道から駅構内中に入るのには何分かかかる。全体的な時間として、商売として時間がかかるのは考えられない。少し回るくらいはできるが引き込むのまでは困るといのが、長崎電鉄が一番ひっかかる場所である。

(委員)

- ・新しい駅ができると、問題点も色々出てくると思う。
- ・長崎駅では、今団体にバスに乗っている風景は見ない。これは鳥栖乗り換え等もあるからバスで長崎に来るからだろうが、新幹線が来れば、バス駐車場の問題が出てくる。団体向けのバス駐車場、バス観光を想定しないといけないのではないかなと思う。

(委員)

- ・市の駅周辺まちづくりの委員でもあり、内容を知っている。駅前の商店街の方も委員会に入っているし、特に中心街の委員の方は、駅の整備にかなり意見を言われる。
- ・我々からすれば、最後の面積が残されたエリアであり、新幹線という画期的なものが入ってくるので、一商店街の意見というだけではなく、どういう調整を考えていかなければいけないのだろうかというところから考えている。
- ・長崎駅周辺は最後に残された平地であり、大切に計画を立てていかなければと思っ望んでいるが、まだ決まっていないので断定的には言えない。

(副市長)

- ・駅周辺の面整備を市が区画整理事業として実施しているので、説明させていただくが、新しい駅と商店街が150mから200m離れてしまうということで、それをどうしていくかということが1つある。
- ・駅周辺地区全体としては、委員からあったように駅周辺まちづくり委員会をつくって、既存の駅前商店街とどういう風な形で連携していくか、どういう形が望ましいか、また地区のルールづくり等をしているところである。
- ・駅前商店街だけは県庁舎移転に賛成したところでもあり、地区の強みをなんとかして活かして活性化につなげたい意向を持った地区である。駅前商店街協同組合として活発に活動しており、私共も駅前地区のまちづくりを今後どう考えていくか議論を始めているところである。駅前地区が、駅に頼って生きるまちなのか、駅と役割分担しながら生きていくまちになるのか、そういう点も含めてまちづくりのあり方を探っていこうという段階にあり、ポテンシャルはあると思っているので、地元の皆様と考えて行きたいと思っている。
- ・トランジットモールだが、浦上川線と新しい長崎駅との間に100m程度の幅で新しい土地ができる。そこを長崎駅裏ではなく、駅の西口にしないといけない。西側も1つのまちとしてきちんと機能するものしていく必要がある。その時に公共交通として電車を引き込むというのが1つの考え方としてあり、また、それを西側の海岸地区まで延ばしていくことが将来的な可能性としてある。具体的な話をしたところまでは行っていないが、駅の西口までは行って、西側を暗い場所にはしない、利便性を高めていこうという議論をする中で理解してもらった上で都市計画決定したことなので、理解してもらっているとは思っている。
- ・ただ、長崎電鉄としては、利用者数の減少傾向が続いており、経営的面では不安を抱えているのが現状で、トランジットモールや松が枝の国際ふ頭に延伸するということにもある意味、消極的な考え方が社の中にあるのは実態と思う。
- ・駅の西側にどのような施設を誘導していくか、そこを公共交通が活用されるまちにしていくかが重要であって、その中では電車はきっと生きてくると思う。
- ・そのために、市としては駅周辺のまちづくりというものを、責任を持ってやっていきたいと思っている。

(委員)

- ・県庁舎は相当ボリュームのある建物になるので、景観形成上も大きな影響がある。十分

景観アセスメントをされると思うが、最低限押さえるべきところ、例えば西坂公園から海の眺めが確保できるとか、そういう要所要所を的確に押さえて、極力、大景観に影響を及ぼさないような整備が必要である。

- ・新駅舎から離島航路への3案の比較だが、アクセス、利便性、採算性が大きな評価指標となって検討されているが、離島に行く人の目的としては、ビジネスというより観光という人が少なからずいる。そういう人から見れば、単に時間が短いというのではなくて、まちに触れられる楽しみというものも考える、つまり、直結もいいが、いかにまちに誘導するかという工夫で、歩道の設計を考える必要があるのではないか。
- ・例えば、陸域活用案は、まちにうまく引き込めて、かつ水辺のプロムナードも活用できるので良いと思う。

(副知事)

- ・駅前の商店街の話があるので補足したい。
- ・駅周辺、松が枝の他に、まちなかエリアという重点地域が挙げてある。まちの回遊性を高めるということを大きな柱に掲げている。駅から歴博を通して、諏訪神社までいく回遊性を一つの重要な柱としている。26聖人も駅のすぐ近くにあり、仮に世界遺産になれば価値が大きく変わってくることになる。
- ・裏側には勝海舟や坂本龍馬のゆかりの寺等が並んでおり、長崎の魅力を高めるためには回遊性を強化していかないといけないとなると、駅前商店街はまさに入口になるので、グレードアップしていかないといけない。副市長もポテンシャルがあると言われているが、我々もそういう思いで可能性が開花できるようにしないといけない。
- ・今回は議論できていないが、まちなかエリアの回遊性や重点エリアの議論をさせて頂く際に、大きな一つの議論のテーマになってくると思うので、その際に色々なアイデアを頂きたいと思う。

(委員)

- ・聖人が26人もいるまちは他にはないとカトリックの人から言われた。
- ・県と市にお願いして回遊できるものにしていかないと出来ないのではないかと言われた方がいるので、26聖人についてもよく考えて頂きたいと駅前の商店街の人達に話したことがある。

(委員)

- ・語弊があるとすれば問題なので、補足させて頂きたい。
- ・駅前商店街が駅舎がずれるから駄目になるという話ではなく、そもそもこの時代、きちんと良いものを売らないと駄目だということである。
- ・26聖人という資源があるにもかかわらず、今までそこは全く関係がない。それを使って自分たちで何か仕掛けてやろうと、例えば大景観を良くするとの話になれば、自分たちで屋根の看板を降ろすだろうが、中々そこまでいかない。そこを商業の面から新しい動き、人材育成から経済的支援までいろいろとあるだろうが、それをしっかり手当しとあげないと、今のままでは間違いなく駄目になるだろうと言う意味である。

(委員長)

- ・長崎歴史文化博物館に行くルートのほかに、もう一つ長崎港ターミナルを通して浜んまちに行くルートである。長崎港ターミナルに行くルートを伸ばして、県庁跡地が世界遺産センターになるのかどうかは知りませんが、浜んまちとの連結を少し考えた上でどうするか考えた方がいいなと前から思っていた。

- ・言いたい放題言ったので、参考になったかはわかりませんが、事務局で咀嚼して頂いて、よろしくお願いします。

(県事務局)

- ・次回は3月25日開催を予定している。
- ・松が枝の最終案として審議いただきたい。